

2024_0829「台風10号の目に入った口之島（動画）」日々の理科 3675号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

台風の主なエネルギー源は「温かい海水」です。日本南岸の暖流海水域を移動中は、発達を続けることが多いのはこのためです。上陸すると、直接のエネルギー源を失うので、急速に衰退するのが普通です。しかし、海に囲まれた離島の場合、まったく勢力が衰えないまま、直撃を受けることもあります。今回の台風10号でも、鹿児島県のトカラ列島の島を、台風が通過しました。

台風は中心部に近づくほど積乱雲が高く発達し、風も強いのが普通です。しかし「台風目」だけは例外です。特にはっきりした目を持つ勢力の強い台風の場合、目の内部では風も雨も穏やかになり、晴れ間すら見えることもあるそうです。今回の台風10号でもトカラ列島の「口之島（くちのしま）」という小さな島が完全に目の内部に入りました。

動画で台風目を追うと、完全に雲がなくなっているわけではありません。しかし目の通過中は、恐らく風も穏やかで青空も見えていたと思われます。今回の台風10号は非常に動きが遅いので、口之島は台風目に数時間入っていたと見えます。しかしそれで終わりではなく、目の通過後はもう一度暴風雨に見舞われたはずですが。

目の動画をよく観察すると、目の中に2つ雲の渦が観察できます。この渦がどんなメカニズムで発生・持続するのが、非常に興味を持ちました。

(2024年8月下旬／気象衛星可視高解像度画像)

